

## 中国少数民族運動会からみた民族団結概念の強化

鄭 稼棋（早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士課程 3 年）

「平等、団結、互助、和諧」は中国社会主義と民族関係の基本的な特徴で、「各民族一同団結奮闘し、全体的な繁栄かつ発展を目指す」という理想を追求するのは中国の一貫した思想である<sup>1</sup>。中国国家体育総局の群衆体育司司長である邱玉才は 1995 年に「中国人民共和国の建国以来、少数民族の伝統スポーツは諸民族融合政策の展開に関して、多大な注目と関心を集めている課題である。そして、少数民族伝統スポーツ祭典の開催は、政府の重要な政策の一つでもある」と述べた<sup>2</sup>。

また、民族スポーツ政策は中国の国家政策の縮図でもあり、この政策を通じて、中国における民族団結と各民族の共同発展を推進するための基本思想や政策理念が明らかになる<sup>3</sup>。50 年以上の歴史を有する少数民族運動会発展のなかで、村中の運動文化から現在のような盛大な大会になった過程、さらに、民運会が成立された後、政府はどのように民運会を利用し、民族団結と国家意識の概念を主張してきたことが明らかにするのが本研究の目的である。

この目的を達成するために、本研究は民運会について、第 1 回（1953 年開催）から第 9 回（2011 年開催）までの大会を対象にして、文献研究（歴史的研究法）を行い、民運会の誕生、歴史的な発展を再構成する。

おわりに、中国の中央政府は民運会を重要な民族政策として扱っている。民運会を通じて、スローガン、会章、マスコットを利用して、政策と国家意識を宣伝する。また、テレビ放送などのメディアを通じて、全国国民と世界の人々に民族団結、社会和諧の精神を伝え、各民族の問題が解消されることを望んでいる。

上記の点から見ると、民運会によって民族問題を軽減し、国民に民族団結概念への認識を一層深くさせるという中央政府の目標が明確に達成したかどうかは不明であるため、今後の課題として、地方政府と少数民族選手による民族団結、社会和諧の概念が強化されたのかを続いて探究したい。

<sup>1</sup> 中国共産党歴回全国代表大会データベース-中共中央關於構建社會主義和諧社會若干重大問題的決定- (<http://cpc.people.com.cn/GB/64162/64168/64569/72347/4912752.html>)

<sup>2</sup> 邱玉才 (1995). 中国の少数民族伝統スポーツ. 伝統スポーツ国際会議実行委員会 編: 21 世紀の伝統スポーツ (スポーツ人類学叢書). 大修館書店.

<sup>3</sup> 饒遠, 徐紅衛, 張雲鋼 (2007). 在民族体育政策実施中構建和諧的社會主義民族關係—略論中國共產黨的民族体育發展政策. 雲南行政学院学報, 5, pp129-132.